

スリランカにおける環境・防災分野における国際共同研究の展開

埼玉大学 環境科学研究センター

川本 健

● 報告者

1. 「湿地・植生バイオシールド工学」確立のためのアジア国際研究ネットワーク構築と研究交流」, 田中規夫, 埼玉大学
2. 「Impact of hydrological changes on the stability of coastal water-bodies and its consequences; a study based on four lagoons in southern Sri Lanka」, Tilak P.D. Gamage, ルフナ大学 (スリランカ)
3. 「Towards a sustainable municipal solid waste landfill management in Sri Lanka: Present scenario and prospective」, Anurudda K. Karunaratna, 埼玉大学
4. 「スリランカ廃棄物管理能力向上に向けた国際技術協力」, 佐藤尚文, 国際航業株式会社・埼玉大学
5. 「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止・修復技術の構築を目指して」, 川本健, 埼玉大学

● 企画セッションの趣旨と意義報告者

スリランカは、他の開発途上国と同様に、急激な人口増加、商業活動の活発化等に伴い、様々な環境問題・防災問題が顕在化している。例えば、急速な開発圧力の高まりは、無計画な土地開発を引き起こし、防災機能を有する海岸樹林帯や貴重な湿地環境の喪失をもたらしている。さらに、廃棄物排出量の増加は、不適切な廃棄物管理や最終処分場の未整備も伴い、深刻な環境悪化や健康被害を招いている。

本機関（埼玉大学）は、環境・防災分野を中心に、スリランカ国内の複数研究機関と多くの国際共同研究・研究者交流を実施し、強固な研究協力体制を構築している。本企画セッションでは、本機関が中心となり現在スリランカで実施している二つの国際共同研究（H21-23年JSPSアジア・アフリカ学術基盤形成事業 研究交流課題名：アジア大都市周辺の環境・防災問題解決に寄与する湿地・植生バイオシールド工学の展開、H21-H26年JST-JICA地球規模課題対応国際科学技術協力事業 研究課題名：スリランカ廃棄物処分場における汚染防止と地域特性を活かした修復技術）及び関連するこれまでの活動や技術支援を通して得られた知見や成果を提供し、参加者との意見交換を通して、今後の国際研究活動に役立てることを目的とする。